

報道関係者各位

## 茨木市の新施設「おにクル」 多彩なメニューで 5,400 万円を超える寄附

茨木市では、令和5年11月26日の文化・子育て複合施設「おにクル」の開館に向け、約2年間で5つの寄附メニューを実施しました。うち3つはクラウドファンディングとして実施し、いずれも目標額を達成。令和5年9月19日現在、寄付の総数は710件、寄附額の総額は54,105,025円となっています。

検討段階から約8年の歳月をかけてオープンするおにクルの整備にあたっては、数多くの市民参加型の取組みを展開し、市の担当者が「日本一」と胸を張るほど多くの市民が関わってきました。5つの寄附も「参加」の仕組みの1つとして取り組んだものです。

なお、ホール、子育て支援、図書館、市民活動センター、プラネタリウム、カフェなどが入る7階建てのおにクルは、異なる機能や活動などの連携に積極的に取り組む他に類を見ない公共施設となっており、これからの茨木のまちづくりにおける「共創の中心地」としての役割を果たすこととなります。

### ■寄附メニューの概要

- ・第1弾「言葉」を育てるプロジェクト（R3.12/15～現在も受付中）  
おにクルに向けた想いを銘板にして施設内に設置するというメニューを設け、これまでに個人や企業・団体から235件、47,415,419円の寄附が集まっている。
- ・第2弾「ピアノ」を育てるプロジェクト（R4.2/15～2/16）  
新たに導入するフルコンサートピアノの弾き込みを特典にしたところ、50件の枠が想定よりも早い2日間で埋まった。
- ・第3弾「えほんひろば・おはなしのいえ」を育てるプロジェクト（R4.5/25～8/25）  
クラウドファンディングとして実施。目標額200万円に対し約336万円の寄附。
- ・第4弾「宇宙とふれあえる場」を育てるプロジェクト（R5.5/1～6/30）  
クラウドファンディングとして実施。目標額150万円に対し約162万円の寄附。
- ・第5弾「遊び」を育てるプロジェクト（R4.7/3～8/31）  
クラウドファンディングとして実施。目標額100万円に対し約125万円の寄附。

寄附区分	目標額 (万円)	件数 (件)	寄附額(円)
第1弾「言葉」を育てるプロジェクト	—	235	47,415,419
第2弾「ピアノ」を育てるプロジェクト	—	50	450,000
第3弾「えほんひろば・おはなしのいえ」を育てるプロジェクト	200	150	3,364,000
第4弾「宇宙とふれあえる場」を育てるプロジェクト	150	171	1,624,000
第5弾「遊び」を育てるプロジェクト	100	104	1,251,606
合計	—	710	54,105,025

寄附実績（R5.9/19現在）

### ■福岡市長コメント

皆さまからいただいた思い、ご支援を着実に形にして期待に応えていきます。



【本件に関する問合せ先】

市民文化部共創推進課

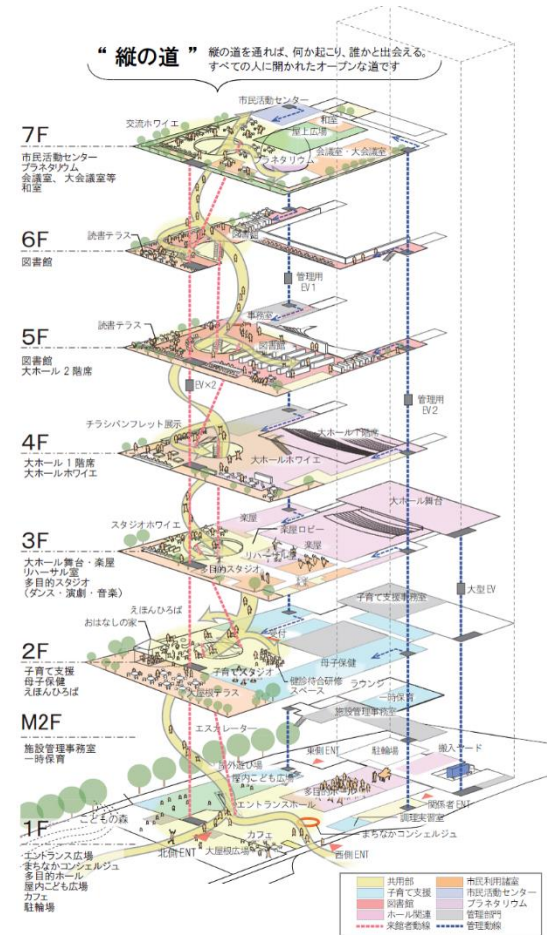
電話：072-655-2757

## 【参考】文化・子育て複合施設「おにクル」の概要



おにクル完成イメージ

- 茨木市役所前の市民会館跡地エリアに令和5年11月26日に開館予定の新施設・広場。
- ホールや図書館、子育て支援、プラネタリウム、市民活動センター、芝生広場など、様々な機能を備えた複合施設。
- 公募と市民投票を経て決定した名称「おにクル」は、当時6歳の子どもが命名。まちなさまざまな場所で目にする鬼のキャラクター「いばらき童子」を見て、「怖い鬼さんも楽しそうで来なくなっちゃうところ」という意味を込めたといいます。
- 伊東豊雄建築設計事務所が設計を手掛けており、7階建ての各フロアを貫く吹き抜け空間「縦の道」が特徴的な建物。
- 施設の設計コンセプトは、「日々何かが起こり、誰かと出会う」。「縦の道」によってそれぞれの機能が混ざり合い、日々いろんなことがいろんな場所で起きていることが何となく五感で感じられる、誰もが過ごしやすく、訪れたい「立体的な公園」のような場をめざしています。
- 平成27年12月の元市民会館の閉館以降、市民の皆様と対話を通じて導かれた市民会館跡地エリア活用のキーコンセプトは『育てる広場』。市は市民が「使いたくなる場」を提供し、使い方や活動等は市民自身で作り上げていく考え方のもと、様々な取組みを積み上げてきました。
- 現在、開館に向けて、期待感醸成と開館周知のために、さまざまなプレ事業を実施中。おにクルに備わる異なる機能同士（例：子育て×図書館）の連携事業など、おにクルらしい企画を数多く展開しています。



“縦の道”は、回遊するように7層のフロアをつなぎ、人に出会いをもたらします